

昭和53年度第5回シグマ委員会運営委委員会議事録

日 時 昭和53年11月24日(金) 13:30~17:30
場 所 原研本部第35会議室
出席者 塚田(主査原研), 飯島(NAIG), 松延(住友原工)
大竹(動燃), 関(MAPI), 久武(東工大), 中嶋(法政大), 田中・更田・五十嵐(原研)
オブザーバ: 原田・浅見(哲)(原研)

配布資料

1. 前回議事録
2. ガンマ線生成断面積検討小委員会(検討用素材)
3. " 第1回会合(53.9.26)議事録(案)
4. " 第2回会合(53.11.10)議事録(案)
5. WRENDAグループ報告
6. Knoxville Conf についてのJ. L. Fowler氏の手紙(写)
7. INDC Calendar of Data Conferences and Meetings
8. 日本コデータ協会役員名簿(案), 規約(案)

議 事

1. オブザーバについて
事務局より原田氏(原研)がオブザーバとして常時出席することが提案され了承された。
2. 前回議事録確認
3. NEACRP第21回会合
11月6-10日にNEACRPの第21回会合が東海研で開催され、INDCから塚田主査と更田委員とが出席した。更田委員より会合の概要について説明があった。
4. Ad hoc Committee (ガンマ線生成断面積検討小委員会) 飯島委員より資料(2)~(4)にもとづいて報告が行われた後、質疑応答および討論を行った。

ガンマ線生成断面積のENDF/B-Mデータの現状、B-Mでの満足度、必要核種、man power等についての議論および次のような意見があった。

- JENDL-2との関連できちんと議論しておく必要がある。
- WGを新たにつくるにしても他WGとのman powerの関連を考慮しておく必要がある。
- スタートするにしても運営委で具体的な案をつくる必要がある。
- 手がけておかないと、いざと云うときに非常に困難になる。

結局、各WGから次年度の計画を2月に出してもらい、2月の運営委でこの問題を含めて次年度の計画を検討することにした。

5. WG活動報告

(1) WRENDAグループ

五十嵐委員から資料(5)により説明があった。スクリーニング作業により新リクエストは72件→22件、見直し325件→222件で新旧合計244件をデータバンクに送った。FusionとSafeguardsとは見直しが不十分なので次回には十分検討する必要がある。訂正部分があったら、1月末迄に連絡すれば間に合うので至急連絡して欲しいとの説明があった。

(2) 燃料サイクル核データWG

更田委員からWGの議事録により会合およびWGメンバーの説明があった。問題点を拾うのが最初の作業であり、サイクルの節々で核データに関連するものがあるかを調べるのが当面の仕事であると説明があった。

6. 国際会合の検討

(1) 1979 Knoxville Conf

更田委員から資料(6)について説明があり、circularの国内送付先リストの検討を行った。プログラム送付先リストについての意見、日本からのspeakerについての提案があったら1週間以内に出して欲しいとの要請があった。

(2) 今後のbig conferenceの考え方

更田委員から資料(7)により今後の国際会合について説明があり、その中でregional confがinternationalになっている等の指摘があり、

今後このことを検討してゆきたいので考えておいて欲しいとの提案があった。

7. その他

(1) 日本コデータ協会

更田委員から資料(8)により日本コデータ協会の設立の動機等について説明があった。その中でシグマ委の主だった人達も加って交流のチャンネルを付けるのがよいとの発言があった。

(2) アナウンス

- NEANDCの決定により、今後“U” documentは“L”配布の人以外に自動配布はしないこととなった。
- 11/28に京大炉でデータ活動関係の研究会がある。

次回は12月20日(水)東海研(研究会の時の書休み)

次々回は1月19日(金)東京